

# 8件の文化財が新たに市指定文化財に指定されました

市内長野地区の旧忍川沿いにある<sup>べんてんもんび</sup>辯天門樋、桜町にある長久寺山門と鐘楼、在家・馬見塚・長野（桜町）・若小玉・野の各地域で行われている獅子舞の計8件の文化財が、7月30日に市の建造物・無形民俗文化財に指定されました。また、枯れてひこばえだけになっていた長久寺の菩提樹について、市の天然記念物指定が取り消されました。

これで市指定文化財は63件になりました。

## 辯天門樋

- ▶種別 建造物
- ▶所在地 長野字新田地内
- ▶年代 明治38年（1905）

この門樋は、旧忍川につながる農業用水路の取入口に設けられたもので、明治38年6月3日に竣工しています。深谷市の日本煉瓦製造会社製の煉瓦をイギリス積みして造られており、川表側の翼壁から袖壁までの形が左右非対称形（県内では2例のみ）であることが特徴です。造形装飾にも重きを置いた治水関連の近代化遺産であり、埼玉県の近代煉瓦生産を物語る遺構としても貴重です。



## 長久寺鐘楼

- ▶種別 建造物
- ▶所在地 桜町2-20-44（長久寺境内）
- ▶年代 江戸時代初期

長久寺の境内南側、山門の北西に位置する<sup>ほういつけん</sup>方一間、<sup>ぶき</sup>本瓦葺、切り妻造りの鐘楼は、移築されており、屋根も<sup>ふ</sup>葺き替えられています。古文書などの記録や建築様式から江戸時代初期の建築と考えられるものです。寛永10年（1633）に忍城主松平信綱が<sup>こうしやう</sup>洪鐘を寄付したと「長久寺由緒明細書」に記されており、その洪鐘の鐘楼と思われます。江戸時代初期の北関東における寺院建築を知るうえで貴重な建造物であるといえます。



## 長久寺山門（付扁額）<sup>つけたり</sup>

- ▶種別 建造物
- ▶所在地 桜町2-20-44（長久寺境内）
- ▶年代 江戸時代初期

長久寺の境内南側に位置するこの山門は、<sup>ぶき</sup>本瓦葺、切り妻造りの四脚門で、棟札などは発見されていませんが、古文書などの記録や建物装飾などから江戸時代初期の建造と考えられるものです。長久寺は天正18年（1590）に石田三成の忍城水攻めのときに兵火を受けており、この山門はその復興の際に建造されたと思われます。正面には後付けですが、延宝4年（1676）に長久寺に立ち寄った本山智積院第七世能化であった<sup>うんしやう</sup>運敬筆の扁額が掲げられています。江戸時代初期の北関東における寺院建築を知るうえで貴重な建造物であり、一体となっている扁額も長久寺の格式と本山との関係がうかがえる歴史資料であるといえます。

